

第10回 山ノ下遺跡 (渡利)

阿武隈川は福島盆地内を山麓線に沿って北流し、荒川との合流地点で西側にふくらむように蛇行していますが、山ノ下遺跡は阿武隈川の蛇行した部分の東岸に位置します。

現在まで3度の本調査が実施され、合計209基の土坑が確認され、なかでも大型土坑の存在が特筆されます。土坑はまとめて存在すること、試掘調査で周辺から住居跡と思われる遺構が見つかることから、大型土坑の多くは縄文時代後期の貯蔵穴とされ、その他に狩猟用の落とし穴も含まれます。

阿武隈川を挟んで川向かいには県庁があり、福島市ではめずらしい街なかの縄文遺跡です。



貯蔵穴は一か所からまとめて見つかり、同じ場所に重複して掘られていました。



落とし穴は底の形が長方形で、間隔をあけて掘られています。

用語解説

「貯蔵穴」

貯蔵穴は直径1～3m、深さ1～2mほどの丸い穴で、円筒形のもの、入口に比べて底の方が広がっているフラスコ型のものがあります。

縄文人はドングリやトチの実など秋に収穫した木の實を、かごに入れて穴にしまい、土をかけて地中に埋めて保存していました。貯蔵穴は食物を長期間保存する工夫の一つです。



和台遺跡(飯野町)で見つかった貯蔵穴

「敷石住居」

敷石住居は縄文時代後期の初め頃に、主に関東地方で流行した住居です。

床に平らな石を敷きつめていること、地面を掘りくぼめず平地に作ることで、柄杓型という円形と四角形を複合した形をしていることが特徴です。

宮畑遺跡でも見つかるということは、関東地方との交流を示す証拠と考えられます。



宮畑遺跡3次調査で見つかった敷石住居。平らな石を敷き詰めている様子がよくわかる。

宮畑遺跡にはトチノキが植えられています。福島市の平和通りにもトチノキが街路樹として植えられていますが、5月頃に直立した花序にたくさんの花をつけ、秋に実が熟すとクリに似た種子ができます。この実は苦みが強いのですが、アクを抜いて食用にします。その代表的な食べ方が「トチ餅」です。

トチの実には宮畑遺跡をはじめとする多くの縄文遺跡からも出土しており、縄文人はアク抜きの方法を知って、食べていたものと考えられます。太古の昔から人々の暮らしを支え、見つめてきた植物たち…ロマンを感じます。

編集後記

みやはた だより  
じょーもぴあ宮畑 第12号 平成26年8月

☆「じょーもぴあ」とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班

整備の様子をのぞいてみよう 第8回

平成25年度建設工事を行っていた休憩棟が完成し、北側多目的活用地区の整備はすべて完了となりました。6月からは休憩棟と炊事棟の供用を開始し、じょーもぴあ宮畑で芋煮会やバーベキューを行うこともできます。(利用方法は下記施設案内、市政だより7月号、福島市ホームページ等をご覧ください。)

平成27年の夏の全面開園に向け、平成26年は体験学習施設の建築工事を進めており、現在は建物を支える基礎杭打ちを行っています。工事の進捗状況は福島市ホームページでもお知らせしていきます。



休憩棟



炊事棟

休憩棟・炊事棟利用案内

<使用できる期間と時間>

- 【利用期間】 平成26年6月9日(月)～11月9日(日)の土・日曜日と祝日  
※夏休み期間中〔平成26年7月19日(土)～8月24日(日)〕は毎日使用できます。
- 【利用時間】 午前9時～午後5時(駐車場は5時30分に施錠します)

休憩棟

- ①申込み  
団体の方は事前に申し込みが必要です。  
※個人の方は、団体使用時を除いて、使用できます(申し込みは不要です)
- ②使用の開始時と終了時(団体の場合)  
・使用承認書を管理人に提示して下さい。  
・終了の際は、休憩室の清掃を行い、管理人の確認を受けて下さい。

炊事棟

- ①申込み  
事前申し込みが原則です。(1日2組)  
※以下の場合は当日申し込みも受け付けます。  
・使用希望時間に使用予定がない場合  
→休憩棟に備え付けの使用申込書に必要事項をご記入の上、管理人に提出し、使用承認書を受け取って下さい。
- ②使用の開始と終了時  
・使用承認書を管理人に提示し、管理人が水道蛇口をセットしたあとに使用できます。  
・終了の際は、消火および炊事棟の清掃を行い、管理人の確認を受けて下さい。ゴミや残菜はお持ち帰り下さい。

申込み方法

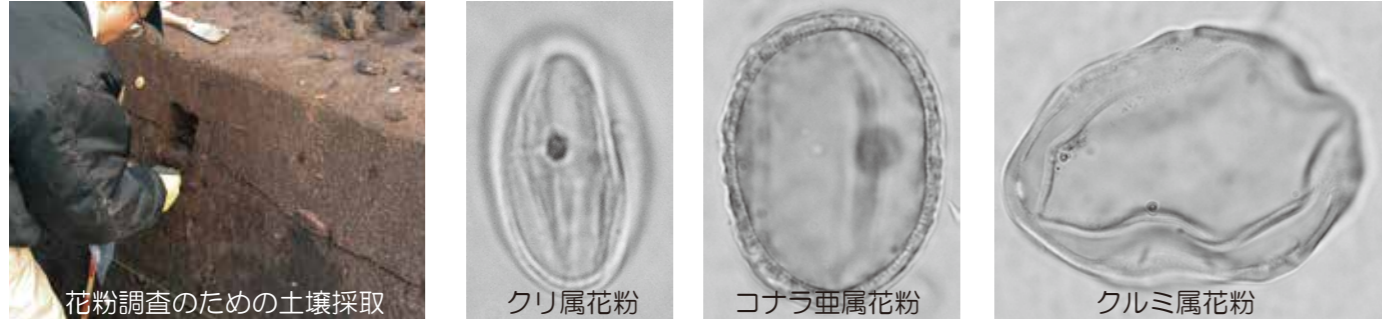
教育委員会文化課(市役所8階)へお申込み下さい。申込書は文化課のほか、もちずり学習センター・東部支所にも備え付けてあります。

じょーもぴあ宮畑の現在の環境放射線測定値は平均で0.09～0.12マイクロシーベルト/時間です。

# 特集 じょーもぴあ宮畑の植物

宮畑遺跡では、縄文時代の環境を調べるために、<sup>どじょう</sup>土壌に含まれる<sup>からん</sup>花粉などを発掘調査の際に分析し、縄文時代に遺跡とその周辺にどのような草木が生えていたのかを調べています。

その結果、縄文時代の宮畑遺跡には<sup>らくようこうようじゅ</sup>落葉広葉樹が広がっていたことが明らかになり、縄文時代早期（約 6000 年前）には、コナラ・クマシデ・アサダが主体となる植生でしたが、中期頃（約 4000 年前）になると、クリ・コナラが主体となる植生に変化していることがわかりました。また、水辺にはクルミ・トチノキも生えていたようです。特にクリ花粉が目立つことから、遺跡のすぐそばには重要な食料や用材としてりようするためのクリ林が存在し、栽培されていた可能性も指摘されています。



また、宮畑遺跡の整備においては、縄文時代の遺跡とその周辺<sup>しよくせい</sup>の植生をもとに公園<sup>しよくさい</sup>の植栽を行っています。遺跡全体にはコナラを配置し、復元された掘立柱建物や<sup>ほったてはしらたても の たてあなじゅうきよ</sup>竪穴住居の周辺②にはクリが、遺跡の西側③にはクリ・トチノキなどの食用になる木の実をつける高木を中心に、弓の材料になるイヌガヤや木器の材料になるケヤキなどが植えられています。南側の湿地④にはクルミ・ヤチダモ・ハンノキなど湿地を好む植物が植えられています。

また縄文時代にはなかったものも含まれますが、湿地にはハナショウブ、東側の園路沿い①にはウツギ・ヤマツツジ・レンギョウ・ムラサキシキブなど、目を楽しませる植物を植えました。



ハンノキの実は松かさよりも小さく草木染に使えます。



トチノキの花は蜜がありハチが寄ってきます。



エゴノキの花は白く、垂れ下がるように咲きます。



イヌガヤの新芽は柔らかい緑色です。

# じょーもぴあ・遺跡の案内人の活動紹介

じょーもぴあ・遺跡の案内人今年度最初の活動は、「<sup>どそうは</sup>土層剥ぎ取り」の<sup>せんじょうさぎょう</sup>洗浄作業です。

「土層剥ぎ取り」とは地層そのものを<sup>うす</sup>薄く剥がして<sup>ひょうほん</sup>標本として保存する方法です。

宮畑遺跡では平成 14 年度に以下の手順で実施しました。

①最初に、保存したい<sup>せつちやくざい</sup>地層に接着剤の役目をする薬品を塗って、表面を固めます。



②薬品が固まったら、<sup>ほきよう</sup>補強用の布を張り付け、その上から同じ薬品を塗り重ねます。



③十分に乾いたら、布地ごと固まった薬剤を引き剥がします。



④地層の表面が布地にくっついて、薄く剥がれてきます。



平成 26 年度はこの地層標本をきれいに洗う作業をしました。水をかけながら、デッキブラシに力を込めてこすると、余分な土の塊<sup>かたまり</sup>が流れ、地層の中の土器のかけらや石などが見えてきます。きれいになった地層はじょーもぴあ宮畑の体験学習施設に飾られるので、ご期待下さい。



乾燥した標本に水をかけ、デッキブラシでこすると、きれいな地層が姿をあらわしてきました。



全長 1.5m にもおよぶ地層の標本です。

# 宮畑遺跡の発掘から整備まで

## 第 9 回「確認調査②」

宮畑遺跡は平成 10 年度から始まった確認調査によりその様相が明らかになってきました。今回は縄文時代後期の集落の様子をご紹介します。

宮畑遺跡では後期の初め頃には竪穴住居のほか、当時関東地方で盛行していた<sup>しきいしじゅうきよ</sup>「敷石住居」と呼ばれる掘り込みを持たない<sup>いしじ</sup>石敷きの住居が見つっています。



確認調査で見つかった敷石住居は、ところどころ石が抜かれもとの形をとどめていませんでした。

遺跡の西側の低地に向かう斜面からは、後期中葉（3500 年前）の土器が大量に捨てられている場所が見つかりました。この場所は土器に感謝をしてその魂を自然に<sup>かえ</sup>還す「送りの場」と考えられます。現在はその場所に<sup>おおいや</sup>覆屋をかけ、発掘した時のままの土器を見学できる施設となっています。



送りの場からはたくさんの土器が出土しています。



土器は短い期間に捨てられたと考えられます。